

小中の連続性を重視した児童生徒の交流

ねがい

〈目的〉

自他を尊重し、主体的に行動する児童生徒を育てるために、9年間の見通しを持ち、連続性を重視した小学生と中学生の交流の場を工夫しました。

つながり

〈内容〉

● 小中連携によるあいさつ運動やボランティア活動

香南中学校区では、以前から小学校・中学校で、それぞれあいさつ運動やボランティア活動が盛んに行われてきました。今年度は、中学生が行っているボランティア活動に小学生も参加しました。小学生が、中学校で行われているボランティア活動「5clean(ごっくりん)運動」についてインタビューしたり、中学生と協力して清掃活動に取り組んだりしました。秋の「あいさつ強化週間」には中学生で組織されるマナーアップリーダーズが、小学校の正門前で活動しました。「おはようございます」と小学生に呼びかけたり、安全見守り活動に取り組んだりしました。また、中学校では生徒会が中心となって、東日本大震災被災地の支援活動を行っています。生徒会長が、小学校のTV朝礼に出演し、支援(チャリティ)活動への協力を児童に呼びかけました。



【小学校正門前での中学生あいさつ運動】

● 小学6年生の中学校体験

小学6年生が中学校の行事や活動を見学したり、参加したりする機会を設けています。夏休みや冬休みなど、長期休業中には部活動見学を行っています。合唱コンクールなどの行事では、生徒会長が案内状を出し、実行委員が小学校へ行ってポスターを掲示するなどしてPRします。また、2月には中学校を会場に児童対象の中学校説明会を行います。中学校生活を紹介するVTRや教員による中学校生活についての説明だけでなく、事前に6年生にアンケート調査を行い、そこで出てきた学習や部活動、校則などに関する不安や疑問に対して生徒会役員が答えます。



【小学校のTV朝礼に出演する生徒会長】

高まり

〈成果〉

あいさつ運動やボランティア活動と一緒に取り組むことで、お互いを尊重し協力し合う態度が身についています。また、中学校体験では、小学生の中学校に対する不安を和らげるとともに、目的意識を持って中学校生活をスタートさせることに役立ちます。今後も9年間の見通しを持った、小中連続性のある取組を推進していきたいと思えます。